皇學館大学研究開発推進センター紀要　第七号
令和三年三月一日発行（抜刷）

資料

# 日本後紀史料（稿）
## ――延暦十四年――

史料編纂所

資料

# 日本後紀史料（稿）——延暦十四年——

史料編纂所

## 日本後紀史料（稿）凡例

一、「日本後紀史料（稿）」は、『続日本紀』につぐ勅撰の歴史書『日本後紀』を基軸に、関聯資史料を併載した編年史料集である。対象とするのは、『日本後紀』が網羅する延暦十一年（七九二）より天長十年（八三三）の四十二年間である。

一、史料の排列は、先行する『続日本紀史料』を踏襲した。即ち、同一記事では、冒頭に『日本後紀』を置き、以下、原則として『類聚國史』『日本紀略』『扶桑略記』を排し、さらに年代記・記録文書類等の関係史料をほぼ成立年代順に掲げた。

一、ただし、『日本後紀』は散逸が甚だしく、現存するのは全四十巻のうち、巻第五・八・十二・十三・十四・十七・二十・二十一・二十二・二十四の十巻であるため、これらの期間については『日本後紀』の記事をそのまま掲げることが可能だが、それ以外の期間については、『類聚国史』『日本紀略』に残る『日本後紀』逸文によった。

一、『日本後紀』本文については、三條西家本を底本とし、朝日新聞社本・新訂増補国史大系本・訳注日本史料本などを参照した。

一、一々の史料について綱文を立て事実の大要を示し、読者の便宜とした。『日本後紀』、若しくはその逸文が存する場合はその文に準拠し、并せて『日本紀略』前篇を参照した。それ以外の史料によって綱文を立てる場合も、努めて史料中の表現を用いた。

一、歴代天皇及び朝廷の記事は、原則として主語を省いた。人名に係る官位・姓は原則として記さないが、薨卒記事には官位・姓を、賜姓記事には姓を附した。

一、木簡・金石文等の断片的な史料や、年月日に係けて綱文を立てるに至らない史料等は、「雑載」として、是月条または是年条に収めた。

一、年紀に諸説があるものや、内容の真偽が定まらないについても広く採録し、注記でその旨を断った。

一、引用の史料は、信頼のおける校訂本がある場合はそれにしたがうが、『類聚三代格』『東大寺要録』など、主要な史料については定評のある古写本にあたり、字句を確認した。依拠した写本については、史料名の下に注記した。

一、「參考」には、參考とすべき史料を掲出したが、本文掲出は最小限に留め、他は史料の所在を注記するにとどめた。

一、上欄見出しは、主に主要用語を掲げ、ほかに便宜、史料を要約して參考に供した。

一、史料本文には、可能な限り句読点・返点等を附して、參考に供した。

一、編者が注記した文は、首に〇を加へて史料のあとに掲げ、また原文中の傍注等には（　）を施し原文と区別した。その際、煩瑣を厭い、續日本紀史料↓續紀史料、皇學館大学研究開発推進センター紀要↓紀要などの略称を用いた。

一、延暦十四年の原稿作成には、荊木美行があたり、京泉勇平氏の協力を得た。

## 延暦十四年乙亥（七九五年）

正月小 庚午朔 盡

■一日（庚午）大極殿未だ成らざるを以て廃朝す。侍臣を前殿に宴して大歌及び雑楽を奏し、宴畢はりて被を賜ふ。

〔類聚國史〕巻第七十一　歳時二　元日朝賀

十四年春正月庚午朔。廃朝。以二大極殿未レ成也。宴二侍臣於前殿一。奏二大歌及雑楽一。宴畢賜レ被。

〔日本紀略〕前篇十三

乙亥十四年正月庚午朔。廃朝。以二大極殿未レ成。

○新京に遷ること延暦十三年十月二十二日（『紀要』五－87）條に見ゆ。

■七日（丙子）群臣を宴し束帛を賜ふ。

〔類聚國史〕巻第七十一　歳時二　七日節會

十四年正月丙子。宴二群臣一。賜二束帛一有レ差。

■十三日（壬午）大雪なり。公卿以下諸衛に至るまで綿を賜ふ。

〔類聚國史〕巻第百六十五　祥瑞上　雪

十四年正月壬午。大雪。公卿以下至二于諸衛一。賜レ綿有レ差。

十六日（乙酉）侍臣を宴し踏歌を奏す。

〔類聚國史〕巻第七十二　歳時三　踏歌

十四年正月乙酉。宴二侍臣一。奏二踏歌一曰。山城顯樂舊來傳。帝宅新成最可レ憐。郊野道平千里望。山河擅レ美四周連。新京樂。平安樂土。万年春。冲襟乃眷八方中。不レ日爰開億載宮。壯麗裁レ規傳二不朽一。平安作レ號驗二無窮一。新年樂。平安樂土。万年春。新年正月北辰來。滿宇韶光幾處開。麗質佳人伴二春色一。分行連レ袂儛二皇垓一。新年樂。平安樂土。万年春。卑高泳澤洽二歡情一。中外含レ和滿二頌聲一。今日新京太平樂。年々長奉我皇庭。新京樂。平安樂土。万年春。賜二五位已上物一有レ差。

〔日本紀略〕前篇十三

乙酉。宴二侍臣一奏二踏歌一。云々。新京樂。平安樂土。萬年春。

二十九日（戊戌）征夷大將軍大伴弟麻呂朝見し、節刀を進る。

〔日本紀略〕前篇十三

戊戌。征夷大將軍大伴弟麿朝見。進二節刀一。

○征夷大使大伴乙麻呂（弟麻呂）、辭見すること延暦十一年閏十一月二十八日（『紀要』三－114）條、節刀を賜はりしこと同十三年正月一日（『紀要』五－64）條、戰果を奏すること同年十月二十八日（『紀要』五－89）條に見ゆ。

勅して、長岡左京三條一坊及び二坊の畠八町を園池と爲したまふ。

〔類聚三代格〕巻第十五　諸司田事

〽諸司田事　園池附出

太政官符

合畠（ハタケ）八町

長岡左京三條一坊八町九町十五町十六町。二坊三町四町六町

右七町　勅旨藍（ハタケ）アヰソノ〔前〕

三條一坊十町

右一町近衛蓮池

以前被二右大臣（藤繩）宣一偁。奉レ勅。件處永充二二司一。以爲二園池一。

延暦十四年正月廿九日

〔弘仁格抄〕下　格卷第七

畠八町永宛二二司一以爲二園池一事　取詮

延暦十年（ママ）正月廿九日

○弘仁格抄ハ延暦十年ニ作レドモ、類聚三代格ニヨリ今茲ニ置ク。

二月小 己亥朔 盡

■二日（庚子）任官あり。

〔日本紀略〕前篇十三

二月庚子。任官。

■七日（乙巳）詔して、征夷大将軍以下に爵級を加ふ。

〔日本紀略〕前篇十三

乙巳。詔曰。云々。征夷大将軍以下加二爵級一。

○征夷將軍大伴弟麻呂、戰果を奏すること延暦十三年十月二十八日（『紀要』五－89）條、節刀を進ること本年正月二十九日條に見ゆ。

■十九日（丁巳）左大辨ほかを任ず。

〔日本紀略〕前篇十三

丁巳。任官。

〔公卿補任〕

延暦十四年乙亥

参議（中略）

正四位下　大中臣諸魚（中略）二月十九日兼左大辨。

従四位下　藤原乙叡（中略）二月庚午兼侍従山城守。同月丁巳兼主馬首（大夫守如元）

延暦十五年丙子

従四位下　紀梶長　（中略）延暦十四年二月丁巳右中辨。兼右衛門督。

延暦廿四年乙酉

参議　従三位　坂上田村麿（中略）延暦十四年二月（中略）丁巳兼木工頭（少将如元）。

正四位下　菅野眞道（中略）延暦十四年二月丁巳左兵衛督（大輔學士守如元）。

弘仁十四年癸卯

（中略）

従四位上　藤（原）道雄（中略）同十四年二十九大學大充。

〔外記補任〕

延暦十四年

大外記従四位下高村田使二月十八日遷大學助

■二十六日（甲子）遷都の神賀事を奏せし出雲人長に位を授く。

〔類聚國史〕巻第十九　神祇十九　國造

十四年二月甲子。出雲國々造外正六位上出雲臣人長特授二外従五位下一。以下縁二遷都一奏中神賀事上也。

○出雲臣人長、出雲國造に任ぜられしこと延暦九年四月十七日（『續紀史料』二十－439）條に見ゆ。

■二十七日（乙丑）伊豫親王、物を奉る。飲宴して樂を奏し五位以上に綿を賜ふ。

〔類聚國史〕巻第七十八　奉獻　獻物

十四年二月乙丑。伊豫親王奉レ物。飲宴奏レ樂。五位以上賜レ綿。

三月大盡
戊辰朔

四日（辛未）勅して、重ねて鷹を私かに養ふことを禁じたまふ。

〔日本紀略〕前篇十三

三月辛未。勅。重禁二私養一レ鷹。

○鷹・鸇を養ふを禁斷すること寶龜四年正月十六日（『續紀史料』十六―603）條に見ゆ。

十六日（癸未）日野に獵したまひ、五位已上に衣を賜ふ。

〔類聚國史〕卷第三十二　帝王十二　天皇遊獵

十四年三月癸未。獵二於日野一。賜二五位已上衣一。

二十五日（壬辰）藤原産子に度尼十一人を賜ふ。

〔類聚國史〕卷第百八十七　佛道十四　度者

十四年三月壬辰。賜二正四位下藤原朝臣産子度尼十一人一。

二十七日（甲午）交野に遊獵したまふ。

〔類聚國史〕卷第三十二　帝王十二　天皇遊獵

甲午。遊二獵于交野一。

二十九日（丙申）考人の數を定む。

〔弘仁格抄〕上　格卷三

應レ定二考人數一事

延暦十四年三月廿九日

余戸里

## 是月　雑　載

〔袴狭遺跡出土木簡〕（木簡研究一九）

「延暦十四年三月十七日　余戸里長所進稲十五□□　□

少□(坂カ)□所進□(船カ)十□〔　〕把定　又二日定九把　又□□□□

（他削りのこりの墨痕あり）

四月小盡
戊戌朔

■一日（戊戌）日、蝕することあり。

〔日本紀略〕前篇十三

四月戊戌朔。日有レ蝕。

■信濃國介石川清主を射し小縣郡人の久米望足を讃岐國に流す。

〔類聚國史〕卷第八十七　刑法一　配流

十四年四月戊戌朔。先レ是。信濃國介正六位上石川朝臣清主爲レ人被レ射而不レ中。遣下二從五位下藤原朝臣都麻呂等一勘中上搜射人上。不レ得レ焉。更遣下二衛門佐大伴宿禰是成一推中上問小縣郡人久米舍人望足上服焉。流二讃岐國一。

推問

百濟王明信

■十一日（戊申）曲宴ありて天皇古歌を誦したまひ、侍臣万歳を稱す。

〔類聚國史〕卷第七十五　歳時六　曲宴

十四年四月戊申。曲宴。天皇誦二古歌一曰。以邇古之弊之能。能那野中古何浮流弥知道。阿良多改米波。阿良多麻良武也。能那賀浮流弥知。勅二尚侍従三位百濟王明信一令レ和レ之。不レ得レ成焉。天皇自代和曰。記美君己蘇波。和主忘黎多魯羅米。爾和記多玉麻乃。多婦和也人米和礼波。都祢常乃詩羅多白玉麻。侍臣稱二万歳一。

■十四日（辛亥）伊豫國、物を獻ず。

〔類聚國史〕卷第七十八　奉獻　獻物

四月辛亥。伊豫國獻レ物。

二十日（丁巳）火災に遭ふを以て大和國の稲二千束を菩提寺に施入す。

〔類聚國史〕　卷第百八十二　佛道九　施入物

十四年四月丁巳。大和國稲二千束施二入菩提寺一。以レ遭二火災一也。

二十三日（庚申）勅して、延暦四年制に從はず、未だ法旨に乖く僧尼に、重ねて教喩し更に然することと得ざらしめたまふ。

〔類聚國史〕　卷第百八十六　佛道十三　僧尼雜制

十四年四月庚申。勅。去延暦四年制。僧尼等。多乖二法旨一。或私定二檀越一。出二入閭巷一。或誣稱二佛驗一。詿二誤愚民一。如レ此之類。擯二出外國一。而未レ有二遵悛一。違犯弥衆。夫落髪遜レ俗。本爲二修道一。而浮濫如レ此。還破二佛教一。非三徒汙二穢法門一。實亦紊二乱國典一。僧綱率而正レ之。誰敢不レ從。宜下重教喩不レ得二更然一。

〔日本紀略〕　前篇十三

庚申。勅。云々。去延暦四年制。僧尼多乖レ法。云々。落髪遜レ俗。本爲二修道一。而淫濫如レ此。還傷二佛教一。非三徒穢二法門一。亦亂二國典一。僧綱率而正之。不レ得二更然一。

○僧尼らが多く法に乖くを制すること延暦四年五月二十五日（『續紀史料』十九－345）條參照。

二十七日（甲子）勅して、田宅園地を寺に賣與することを禁じたまふ。

〔類聚國史〕　卷第七十九　政理一　禁制・卷第百八十二　佛道九　施入物

十四年四月甲子。勅。以二田宅園地一。捨施及賣易與レ寺。禁制久矣。今聞。或寺借附二他名一。實入二寺家一。如レ此之類。往々而在。此而不レ肅。豈曰二皇憲一。宜二其先既捨勘録申レ之。以後皆沒官。以懲二將來一。

甲子。勅。以二田宅園地一捨施及賣易與レ寺。禁制久矣。今聞。或寺借附二他名一。實入二寺家一。如レ此之類往々而在。此而

不レ肅。豈曰二皇憲一。宜二其先既捨勘録申レ之。以後皆没官。以懲二将來一。

〔類聚三代格〕　巻第十九　禁制事

太政官符

禁下凡下百姓將二田宅園地一賣買与レ寺叓

右案二田令一云。凡官人百姓並不レ得下將二田宅園地一捨施及賣易与レ寺。又天平十八年五月九日符偁。諸寺競買百姓墾田・園地一永爲二寺地一。宜下加二禁断一不レ得レ爲レ然。如有二違犯一者賣買人並依レ法科レ罪。又延暦二年六月十日符偁。自今以後。私立二道場一及將二田宅園地一捨施并賣易与レ寺。主典已上解却見任一。自餘不レ論二蔭贖一決二杖八十一。官司知而不レ禁者亦與同罪者。被二右大臣（藤原継縄）宣一偁。奉レ勅。如聞。或寺詐附他名一實入二寺家一。如レ此之類往々而在。前後雖レ禁違犯猶多。此而不レ粛（シマ）豈曰二皇憲一。宜下其承前施捨賣易田宅園地。子細勘録附レ使申上上。自今以後。復有二此類一。咸皆没官以懲二將來一。

延暦十四年四月廿七日

〔弘仁格抄〕　下　格巻第九

禁下天下百姓將二田宅園地一賣中与寺上事　　同十四年四月廿七日

【參考】

〔令義解〕　巻三　田令

凡官人百姓。並不レ得下將二田宅園地一捨施及賣易與レ寺。謂。捨施者。猶二布施一也。賣易者。賣及貿易。但依レ文。奴婢牛馬等。不レ在二禁限一。

天平十八年五月九日符

延暦二年六月十日符

五月小盡　丁卯朔

■一日（丁卯）任官あり。

〔日本紀略〕前篇十三

五月丁卯朔。任官。

■三日（己巳）妖言して衆を惑はす右京人上毛野兄國女を土左國に流す。

〔日本紀略〕前篇十三

己巳。右京人上毛野兄國女流二土左國一。以下自稱二諸天一妖言惑レ衆也。

○妖言して衆を惑はすを禁斷すること天平二年九月二十九日（『續紀史料』五－791）條參照。

■五日（辛未）馬埒殿に御して騎射を觀たまふ。

〔類聚國史〕卷第七十三　歲時四　五月五日

十四年五月辛未。御二馬埒殿一觀二騎射一。

〔日本紀略〕前篇十三

辛未。御二馬埒殿一觀二騎射一。

■六日（壬申）筑後國高良神に從五位下を授け奉る。

〔日本紀略〕前篇十三

壬申。筑後國高良神奉レ授二從五位下一。

九日（乙亥）衛府の舎人、軍毅を係望すれども、今兵士を廃すれば其の望み絶ゆ。若し書竿に巧みな者有らば、主政・主帳に用ふ。

〔類聚三代格〕巻第七　郡司事

太政官符

應下以二衛府舎人一任中主政主張上事

右被二右大臣（藤継縄）宣一偁。奉レ勅。衛府舎人係二望軍毅一。今廃二兵士一其望已絶。若有下巧二書竿一者上。宜レ用二主政主帳一。

延暦十四年五月九日

〔令集解〕巻第十七　選叙令　郡司條

延暦十四年五月九日官符云。應下以二衛府舎人一任中主政主帳上事。右被二右大臣〔継縄〕宣一偁。奉レ勅。衛府舎人係二望軍毅一。今廃二兵士一。其望已絶。若有レ巧二於書竿一者。宜レ用二主政主帳一。

〔弘仁格抄〕上　格巻第三

應下以二衛府舎人一任中主政主帳上事　　延暦十四年五月九日

十日（丙子）俘囚吉弥侯部眞麻呂父子を殺すを以て、俘囚大伴部阿弖良ら妻子親族を日向國に配す。

〔類聚國史〕巻第百九十　風俗　俘囚

十四年五月丙子。配二俘囚大伴部阿弖良等妻子親族六十六人於日向國一。以レ殺二俘囚外従五位下吉弥侯部眞麻呂父子二人一。

〔日本紀略〕前篇十三

丙子。配二俘囚大伴部阿弖良等妻子親族六十六人於日向國一。以レ殺二俘囚外従五位下吉彌侯部眞麿父子二人一也。

十三日（己卯）造宮使主典已下將領已上百卅九人、功に随ひて位に敍す。

〔日本紀略〕前篇十三

己卯。造宮使主典已下將領已上一百卅九人。各隨二其功一叙位。

十四日（庚辰）藤原綿手に度尼四人を賜ふ。

〔類聚國史〕卷第百八十七　佛道十四　度者

五月庚辰。賜二正四位下藤原朝臣綿手度尼四人一。

文室八多麻呂らに長岡舊宮を守らしむ。

〔日本紀略〕前篇十三

庚辰。令下二正五位下文室八多麿等十八人一遥守中長岡舊宮上。

○新都平安京に遷ること延暦十三年十月二十二日（『紀要』五－87）條參照。

六月大盡
丙申朔

一日（丙辰）周防國の田百町・山八百町を茨田親王に賜ふ。

〔日本紀略〕前篇十三

六月丙申朔。周防國田百町。山八百町賜二茨田親王一。

四日（己亥）丹後國内の乘稻四萬六千一束を、介御長仲嗣に賜ふ。

〔類聚國史〕卷第八十四　政理六　乘官物

桓武天皇延暦十四年六月己亥。丹後國介正六位上御長眞人仲嗣言。國内有二乘稻四萬六千一束一。卽賜二仲嗣一。以勸二後輩一。

十一日（丙午）勅して、別庫に収めし毎年の安居・國忌及び雜齋會料の用度に充つべき官家修行諸佛事分二千戸を、諸司の往還の煩有るによりて、官庫に収納せしめたまふ。

〔類聚三代格〕卷第八　封戸事

太政官符

應三官家功德分封物依レ舊収二東大寺一事

寶龜十一年十二月十日下
造東大寺司符

右撿二案内一。太政官去延暦十四年六月十一日下二民部省一符偁。太政官去寶龜十一年十二月十日下二造東大寺司一符偁。被二内大臣（藤魚名）宣一偁。奉レ勅。東大寺封五千戸。就レ中官家修行諸佛事分二千戸一。宜下収二於別庫一以充上二毎レ年安居國忌及雜齋會料用度一。仍三綱寺司与二諸司一相對出納上者。右大臣（藤継縄）宣。奉レ勅。件物収二置別倉一出納。諸司往還有レ煩。宜下自今以後収二納官庫一。修行功德之日随レ用出充上者。（中略）

大同三年三月廿六日

○東大寺封五千戸、就中官家修行諸佛事分二千戸を別庫に収め出納せしむること寶龜十一年十二月十日（『續紀史料』十八－389）條參照。

十四日（己酉）勅して、左右大舎人は蔭子孫を以て補し、位子は簡試に依りて補し、雑色・畿外人を補すことなからしめたまふ。

〔類聚國史〕巻第百七　職官十二　大舎人寮

桓武天皇延暦十四年六月己酉。勅。自今以後。左右大舎人。以二蔭子孫一補レ之。其位子者依レ令簡試。以下容止端正工二於書竿一者上補レ之。不レ得下妄以二雑色及畿外人一補上之。

〔日本紀略〕前篇十三

己酉。勅。自今以後。左右大舎人。以下容止端正工二於書竿一者上補レ之。不レ得下妄以二雑色及畿外人一補上之。

十五日（庚戌）近東院に幸す。

〔日本紀略〕前篇十三

庚戌。幸二近東院一。

十六日（辛亥）勅して、定額の散位・雑色らの藝能ある者、式・兵二省各簡試を加へ、太政官に申し、選人に准じ列見せよとのたまふ。

〔師光年中行事〕二月

十一日。官列見事。於太政官行之。着座公卿已下。弁少納言外記史等皆参之。

天武天皇十一年八月癸未。詔曰。凡諸応考選者。能撿二其族姓及景迹一。方後考之。若雖二景迹行能灼然一。其族姓不レ定者。不レ在二考選之色一。

桓武天皇延暦十四年六月辛亥。勅。定額散位及雑色等有二藝能一者。式兵二省各加二簡試一。率二将其身一申二太政官一。官准二選人一列見。一定之後。不レ得二輒替一。（後略）

天武天皇十一年八月癸未

二十七日（壬戌）大堰に幸す。

〔日本紀略〕前篇十三

壬戌。幸二大堰一。

七月小　盡
丙寅朔

■十日（乙亥）勅して、諸司使部の員数、徒らに数を満し官司に用ふることなければ、格令を改張して定めたまふ。

〔類聚三代格〕巻第四　加減諸司官員幷廢置事

太政官符

應レ定二諸司使部一事

衛門府廿人　隼人司六人　左衛士府六十人　右衛士府六十人

左兵衛府廿人　右兵衛府廿人　主馬寮十人　左兵庫六人

右兵庫六人　内兵庫六人　近衛府廿人　中衛府廿人

以前。被二右臣（継縄）大宣一偁。奉レ勅。諸司使部。徒滿二其數一。無レ用二官司一。宜下改二張格令一。依レ件爲レ定。但左右衛士兩府者。職掌別二他府一。亦宜レ宛充二中等位子一者。省宜兼知。自今以後永爲二恒例一。

延暦十四年七月十日

中等位子

■十二日（丁丑）京中を巡幸す。

〔類聚國史〕巻第三十二　帝王十二　天皇巡幸

十四年七月丁丑。巡二幸京中一。

〔日本紀略〕前篇十三

七月丁丑。巡二幸京中一。

十三日（戊寅）佐比津に幸す。

〔日本紀略〕前篇十三

戊寅。幸二佐比津一。

十六日（辛巳）唐人ら五人に官を授く。

〔日本紀略〕前篇十三

辛巳。唐人等五人授レ官。以優二遠蕃人一也。

十八日（癸未）曲宴ありて五位已上に物を賜ふ。

〔類聚國史〕巻第三十二　帝王十二　天皇遊宴

十四年七月癸未。曲宴。賜二五位已上物一有レ差。

使を七大寺に遣して、常住の見僧尼を検校せしむ。

〔類聚國史〕巻第百八十　佛道七　諸寺

十四年七月癸未。遣下二使七大寺一。撿中校常住見僧尼上。

二十六日（辛卯）左兵衛佐橘入居を遣はして、近江・若狭兩國の驛路を撿ぜしむ。

〔日本紀略〕前篇十三

辛卯。遣下二左兵衛佐橘入居一撿中近江若狭兩國驛路上。

二十七日（壬辰）國司史生以上に、調庸未進數に准じて其の公廨を割いて辨備せしむ。

〔延暦交替式〕

太政官符

一雜米未進事

右去寶龜四年閏十一月廿三日下二民部省一符偁。頃者。諸國雜米。未進數多。既闕二國用一。仍撿二案内一。去寶龜元年五月十五日下二諸國一符偁。春米。掾領已上專當其事。史生已上充二綱領一送。若春運違レ限者。解二見任一奪二公廨一。一依二前符一者。而猶不レ愼。愈致二怠闕一。右大臣（大納言清麿）宣。奉レ勅。自今以後。若有二未進雜米一。無レ問二多少一。國司史生已上。皆奪二公廨一。没爲二官物一。主典已上。並即貶レ考。專當官者解却見任。其郡司主帳已上。咸取二職田一。解レ任貶レ考。亦同二國司一。仍令下諸國公廨之數共二正税帳一每年申上上。自餘委曲依二元年符一者。

一調庸未進事

右去延暦八年五月十五日下二諸國一符偁。得二倫中國朝集使介從五位下下毛野朝臣年継解狀一偁。去年十月奉レ使入京。而當年調物便附二年継一。依レ有二未進一。雖二數遣催一。在國之官曽不レ存レ心。謹撿二太政官去寶龜十年八月廿三日符一偁。入京公使無二返抄一者。不レ預二釐務一。奪レ料申送者。今國司等偏存二此符一。專累二使人一。無レ心二催領一。奉使之徒勞苦京下。還任之日卽奪二公廨一。在國之宰曽無二相催一。班料之日競望優給一。未進不レ絶。則由二於此一。望請。如レ此之類。不レ論二彼此一。同奪二其料一者。官判。目已上公廨共奪申上。但遥附更附者不レ在二奪例一者。

以前。兼前條例如レ件。今被二右大臣（継縄）宣一。奉レ勅。依レ少奪レ多。事實不レ穩。而斛米匹絹。一物未進。則偏稱二格式一悉奪二公廨一。於レ事思量。深乖二弘恕一。自今以後。宜下國司史生已上各作二差法一。准二未進數一割二其公廨一。隨レ色辨備。進中納京庫上。但其未進之物。徵収以充二公廨一。其省寮計會。每年勘出。然則未進之源從レ此而絶。自餘事條一依二先符一者。省宜兼知。准レ勅施行。

延暦十四年七月廿七日

寶龜四年閏十一月廿三日下民部省符
寶龜元年五月十五日下諸國符

延暦八年五月十五日下諸國符
寶龜十年八月廿三日符

〔貞觀交替式〕

太政官符

一雜米未進事

右去寶龜四年閏十一月廿三日下二民部省一符偁。頃者。諸國雜米。未進數多。既闕二國用一。仍撿二案内一。去寶龜元年五月十五日下二諸國一符偁。春米。據領已上專當其事。史生已上充二綱領一送。若春運違レ限者。解二見任一奪二公廨一。可レ依二前符一者。而猶不レ愼。愈致二怠闕一。右大臣宣（大納言清麿）。奉レ勅。自今已後。若有二未進雜米一。無レ問二多少一。國司史生已上。皆奪二公廨一。没爲二官物一。主典已上。並即貶レ考。專當官者解却見任。其郡司主帳已上。咸取二職田一。解任貶レ考。亦同二國司一。仍令下諸國公廨之數。共二正税帳一毎年申上上。自餘委曲依二元年符一者。

一調庸未進事

右去延曆八年五月十五日下二諸國一符偁。得二備中國朝集使介從五位下下毛野朝臣年繼解狀一偁。去年十月奉レ使入京。而當年調物便附二年繼一。依レ有二未進一。雖二數遣催一。在國之官曾不レ存レ心。謹撿二太政官去寶龜十年八月廿三日符一偁。入京公使。無二返抄一者。不レ預二釐務一。奪レ料申送者。今國司等偏存二此符一。專累二使人一。無レ心二催領一。奉使之徒勞二苦京下一。還任之日。卽奪二公廨一。在國之宰。曾無二相催一。班レ新之日競二望優給一。未進不レ絶。則由二於此一。望請。如レ此之類。不レ論二彼此一。同奪二其新一者。官判。目已上公廨。共奪申上。但遥任附更附者不レ在二奪例一者。

以前。承前條例如レ件。今被二右大臣（繼繩）宣一偁。奉レ勅。依レ少奪レ多。事實不レ穩。而斛米匹絹。一物未進。則偏稱二格式一。悉奪二公廨一。於レ事思量。深乖二弘恕一。自今以後。宜下國司史生已上各作二差法一。准二未進數一割二其公廨一。隨レ色弁備。進中納京庫上。但其未進之物。徵収以充二公廨一。其省寮計會。毎年勘出。然則未進之源從レ此而絶。自餘事條。一依二先符一

延曆十四年七月廿七日

〔類聚三代格〕　巻第八　調庸事

太政官符

應下調庸麁悪及違期未進依レ律科レ罪各令中塡納上事

右案二厩庫律一云。應レ輸課税及入官之物而巧僞濫悪者。計レ所レ闕准レ盜論。主司知レ情与同罪。賊盜律云。竊二一尺一杖六十。一端加二一等一。五端徒一年。五端加二一等一。卅端遠流是麁悪之罪也。戸婚律云。輸二課税之物一。違レ期不レ充者。以二十分一論。一分笞卅。一分加二一等一。國郡皆以二長官一爲レ首。佐職節級連坐。注云。全違レ期不レ入者徒二年。是未進之罪也。被二右大臣（内丸）宣一偁。奉レ勅。貢調違レ期。輸物濫悪。法有二恒科一。理合二遵行一。而國郡怠慢不レ憚二憲章一。仍承前立レ格。數施二厳制一。主典已上差充専當一。如有二違闕一解レ任決罰。使無二返抄一不レ預二釐務一。相代奉レ使同奪二公廨一。而國郡官司曽不二改悛一。空設二條章一。何能懲肅。加以使未レ了レ事。偏不レ預二釐務一。傍官有レ故。誰可レ從レ政。夫罰不レ在レ重。法貴二必行一。准二據法律一實足二懲革一。自今以後。宜下改二前格一一依二律條一。更莫中寛宥。但使差二主典以上公勤幹了者一充レ之。若有二未進一者。宜下依二延暦十四年七月廿七日符一。上下作レ差割（サキ）二公廨料一辨備令レ進。

大同二年十二月廿九日

太政官符

應レ責二大宰府貢物麁悪并違期一事

右撿二案内一。貢物麁悪及違期者可レ處二重科一之狀。延暦十四年七月廿七日。大同二年十二月廿九日。承知十三年二月廿一日。數度下レ符既訖。而府司等不レ遵符旨一鎭（トコシナヘニ）致二違期一。非三唯闕二國用一。還狎二慢朝章一。論二之格條一。罪在レ不レ宥。左大臣（源常）宣。頃年州吏不レ勤二公途一。不レ愼二憲法一。啻省二任中累一。全企レ湏二解由一。今須下新張二厳科一殊懲中將來上。脱（モシ）不レ悔二先怠一。猶致二麁悪違期一。府司及管内國宰奪二公廨四分之一一。但郡司准二諸國貢調綱領一。決二杖八十一。不二曾寛宥一。

承和十四年十月十四日

〔政事要略〕巻第五十一　交替雑事（調庸未進）

交替式云。太政官符。　一調庸未進事

右。去延暦八年五月十五日下二諸國一符偁。得二備中國朝集使介從五位下下毛野朝臣年継解狀一偁。去年十月奉レ使入京。而當年調物。便附二年継一。依レ有二未進一雖二數遣催一。在國之官。曽不レ存レ心。謹撿二太政官去寶龜十年八月廿三日符一偁。入京公使。无二返抄一者。不レ預二釐務一。奪レ新申送者。今國司等偏存二此符一。專累二使人一。無レ心二催領一。奉使之徒。勞二苦京下一。還レ任之日。卽奪二公廨一。在國之宰。曾無二相催一。班レ新之日。競二望優給一。未進不レ絶。則由二於此一。望請如レ此之類。不レ論二彼此一。同奪二其新一者。官判。目已上公廨。共奪申上。但遙任レ便附者。不レ在二奪例一者。以前兼前條例如レ件。今被二右大臣（継縄）宣一偁。奉　レ勅。依レ少奪レ多。事實不レ穩。而斛米疋絹。一物未進。則偏稱二格式一。悉奪二公廨一。於レ事思量。深乖二弘恕一。自今以後。宜下國司史生以上。各作二差法一。准二未進數一。割二其公廨一。隨レ色弁備。進中納京庫上。但其未進之物。徵収以充二公廨一。其省寮計会。每年勘出。然則未進之源。従レ此而絶。自餘事條。一依二先符一者。省宜二承知准レ勅施行一。

延暦十四年七月廿七日

〔類聚符宣抄〕第八　解由

太政官符

應下依二雜米未進一斷二罪國郡司一返中國司解由上事

右左大臣（源融）奏狀偁。日者大炊寮院數申レ無レ庫。尋二其由緒一。誠緣二未進一。凡年新白米者。以二大税利稻一。諸國春進。一年應レ納二万八千石一。而或年見納六七千石。或年纔八九千石。然則既欠二三分之一一。何支二百僚之用一。伏見二格條一。寶龜元「年」四兩年頻垂二法制一云。諸國雜米未進數多。既闕二國用一。事須下據領已上專二當其事一。史生以上充二綱領一送上。若有二未進一。無レ問二多少一。國司史生已上皆奪二公廨一。主典已上並卽貶レ考。專當官者解二却見任一。郡司主帳以上咸取二職田一。解任貶考亦同二國司一。延暦十四年格云。依レ少奪レ多。事実不レ穩。而斛米疋絹。一物未進。偏稱二格式一。悉奪二公廨一。於レ事思量。深乖二於恕一。自今以後。宜下國司史生已上。各作二差法一。准二未進數一。割二其公廨一。隨レ色弁備。進中納京庫上。

據二件等一拾一。隨二未進一誤二公廨一。雖レ載二延暦之拾一。罪二專當一貶二綱領一。尚存二寶龜之制一。今之所レ庶。專當國司罪如二始制一。綱領史生亦解却見任。其國司進二解由一之日。知レ無二未進一。及レ後収レ之者。中納言兼右近衛大將從三位行春宮大夫藤原朝臣時平宣。奉レ勅依レ請。

寛平六年八月四日弁史可二尋入一之

○春米は據領已上專當し、史生已上を綱領に充て送らしむこと寶龜元年五月十五日（『續紀史料』十五－381）條、諸國雜米未進あらば、國司史生已上は公廨を奪ひ主典已上は考を貶め專當の官は見任を解却し、郡司主帳已上は職田を取り任を解かしむこと同四年閏十一月二十三日（『續紀史料』十六－732）條、牧宰の輩使に就きて返抄無くば釐務に預からしめず國司は料を奪ひ帳に附して申送し、郡司は解任し幹了を用ゐること同十年八月二十三日（『續紀史料』十八－198）條、諸國司ら使を奉りて入京するに、返抄無くして任に歸る者は、入京在國を問はず目已上の公廨料を奪はしむこと延暦八年五月十五日（『續紀史料』二十－317）條參照。又、延暦十四年七月廿七日の格を引據せし條文、『類聚三代格』巻八調庸事貞觀十三年八月十日・同巻調庸事延喜二年三月十三日・巻十四雜米事貞觀四年九月二十二日、同巻錢鑄事承和十四年二月二十九日、『政事要略』巻五十一交替雜事（調庸未進）などに見ゆ。

閏七月大 盡 乙未朔

一日（乙未）詔して、公廨及び雑色らの稲の出挙の息利を論定し、今年より省減に従ひて、十束を率して利三束を収めしめたまふ。

〔類聚國史〕巻第八十三　政理五　正税

十四年閏七月乙未朔。詔曰。字レ民之道。義資二恤隱一。富レ國之方。事在二薄斂一。朕祇膺二靈命一。嗣守二丕基一。身在二巖廊一。心遍二區域一。思レ俾下菽粟之積等二於京坻一。禮讓之風興中於萠俗上。而四海之内。未レ洽二雍熙一。百姓之間。致レ有二罄乏一。如今諸國出二擧正税一。例収二半倍息利一。貧窮之民不レ堪二備償一。多破二家産一。或不二自存一。興二言於此一。深以閔焉。古人有レ言。百姓足。君孰與不レ足。且其論二定公廨及雑色等稲出擧息利一。始レ自二今年一。一従二省減一。仍率二十束一。収二利三束一。庶幸レ財利レ用。濟二生民於頽弊一。家給人足。緝二隆平於當今一。布二告遐邇一。使レ知二朕意一。

○「償」ハ『類聚三代格』ニヨリ補ス。

〔類聚三代格〕巻第十四　出擧事

太政官符

應レ収二出擧息利一事

右大納言正三位藤原朝臣園人奏偁。謹案二去延暦十四年閏七月一日　勅書一偁。如レ聞。諸國出二擧正税一例収二半倍息利一。貧窮之民不レ堪二備償一。多破二家産一。或不二自存一。宜下其論二定公廨及雑色稲出擧息利一。始レ自二今年一一従二減省一。仍率二十束一収利三束上者。由レ茲勸レ之。矜二百姓之罄乏一。惜二萠俗之弊衰一也。大同之初改二張此例一。更率二十束一収二利五束一。尓來迄レ今彫損滋甚。水旱疾疫頃年相仍。僅頼二今歳之豊稔一。少慰二先時之菜色一。然而窮困之民未レ得二興復一。倣償之煩當レ従二輕尠一。伏請。論二定公廨及雑色稲出擧息利一。始レ自二今年一一依二去延暦十四年勅一行レ之。庶令二改レ重従レ輕濟レ弊招レ益者。右大(内丸)臣宣。奉　レ勅。依レ奏。但陸奥出羽兩國不レ在二此限一。

弘仁元年九月廿三日

二日（丙申）畿内七道の巡察使を任ず。

〔日本紀略〕前篇十三

丙申。任二畿内七道巡察使一。

七日（辛丑）大堰に幸す。

〔日本紀略〕前篇十三

辛丑。幸二大堰一。

十一日（乙巳）大風、官舎・京中の屋を破壊す。

〔日本紀略〕前篇十三

乙巳。大風。官舎京中屋破壊。

十三日（丁未）官物を隠截するを以て、武蔵國司介都努筑紫麻呂らを免官す。

〔類聚國史〕巻第八十四　政理六　隠截官物

桓武天皇延暦十四年閏七月丁未。武藏國司介従五位下勳六等都努朝臣筑紫麿云々等並免官。以レ隱二截官物一也。事具二免官部一。

十五日（己酉）詔して、雑徭を減省して卅日を限りと爲したまふ。

〔日本紀略〕前篇十三

己酉。詔。云々。雜徭宜下以二卅日一爲上レ法。

〔類聚三代格〕巻第十七　蠲免事

勅。依レ令雜徭者。毎レ人均使。惣不レ得レ過二六十日一。如レ聞。京國之司。偏執二斯法一。差科之限。必滿二六十日一。是以富

強之家。□財物一以酬レ直。貧弱之輩。役二身力一而赴レ事。貪濁之吏因而潤レ屋。中外之民於レ焉受レ弊。薄賦輕傜。豈斯之謂乎。自今以後。宜下以卅日一爲レ限。均使之法一如中令條上。其無事之歳。不二必滿レ限。班二告遐迩一。令レ知二朕意一。主者施行。

延暦十四年潤七月十五日

太政官符

應レ免レ調健兒事

右レ得大和國解一偁。依二太政官去延暦十一年六月十四日符一。差二件人等一令レ守二衛國庫一。以二五人一爲二一番一。卽分二卅人一作二廿四番一。一人所レ直六十箇日。而依二延暦十四年閏七月十五日　勅書一。減二省雜傜一。卅日爲レ限。緣レ此分二五人一爲二兩番一。人數減少不レ足二分衛一。更簡二點之一加二一倍一者。恐傜丁欠少。不レ堪二員具一。望請。准二承前兵士一免レ調者。被二大納言從三位神王宣一偁。奉　レ勅。依レ請。山城河内摂津和泉亦准レ此。

延暦十六年八月十六日

○雜傜卅日に限るにより、傜丁缺少し兵士に准じて健兒の調を免ずること延暦十六年八月十六日条に見ゆ

## 勅して、郷毎に倉院を建置したまふ。

〔類聚三代格〕巻第十二　正倉官舎事

太政官符

應レ建二置倉院一事

右被二右大臣（藤継縄）宣一偁。奉　レ勅。如レ聞。諸國建二郡倉一。元置二一處一。百姓之居去レ郡僻遠。跋二渉山川一有レ勞二納貢一。加以倉舎此近。甍宇相接。一倉失レ火。百倉共燒。言念二其弊一。有レ損二公私一。宜下毎レ郷更置二一院一。以濟二百姓一兼絶中火祥上。始レ自二今年一所レ輸租税収二納新院一。但前所レ納二郡家一不動物者。依レ舊莫レ動。其用盡倉者漸遷二新院一。置レ倉之法一依二延暦十年符一。各相去十丈。量レ便置レ之。

延暦十四年閏七月十五日

一倉失火百倉共燒

新院不動物

〔政事要略〕　巻第五十四　交替雑事

又云。應レ建二置倉院一事

右被二右大臣（藤原）宣一偁。奉レ勅。如レ聞諸國建二郡倉一元置二一處一。百姓之居。去レ郡僻遠。跋二渉山川一有レ受納費貢。加以倉舍比近甍宇相接。一倉失レ火百倉共燒。言念二其弊一有レ損二公私一。宜須下毎郷更置二一院一。以濟二百姓一兼絶中火祥上。始レ自二今年一。所レ輸租稅収二納新院一。但前所レ納二郡家一不動物者。依レ舊莫レ動。其用二盡倉一者。漸遷二新院一。置レ倉之法。一依二延暦十年符一。各相去十丈。量レ便置レ之。

延暦十四年潤七月十五日

〔弘仁格抄〕　下　格巻第六

應レ建二置倉院一事

延暦十四年閏七月十五日

○追って倉院の事尋ぬるに頗る穏便に乖き、改めて正倉院を建てること同年九月十七日條に見ゆ。

十七日（辛亥）驛路を廃す。

〔日本紀略〕　前篇十三

辛亥。廢二驛路一。

二十一日（乙卯）勅して、身死せる百姓負ふところの官稲を除免したまふ。

〔類聚國史〕　巻第八十三　政理五　正税

乙卯。勅。諸國百姓。出擧之日。多受二正税一。収納之時。競申二死亡一。課口因レ斯隠没。正税由レ其多損。自レ非二釐革一。何絶二奸源一。自今以後。身死百姓所レ負官稲。不レ合二除免一。

〔日本紀略〕前篇十三

乙卯。勅。云々。自今以後。身死百姓所レ負官物稻不レ可二除免一。

〔政事要略〕巻第五十九　交替雑事

又云。太政官符。百姓負二官稻一身死不レ須二免除一事

右准レ令。百姓負二官物稻一。身死者理不レ可レ徵。又免死之法十分而免二一分一。今諸國百姓。出擧之日。多受二正税一。収納之時。競申二死亡一。已非レ有二悛革一。何絕二奸源一。自今以後。不レ得二免除一。

延暦十四年閏七月廿一日

勅して、官家功徳分封租の進官を停止したまふ。

〔類聚三代格〕巻第八　封戸事

太政官符

官家功徳分封租事

右被二右大臣（藤継縄）宣一偁。奉レ勅。件封租物。自今以後。停二止進レ官。依レ例収納。

延暦十四年閏七月廿一日

〔弘仁格抄〕下　格巻六

官家功徳分封租事

延暦十四年閏七月廿一日

○九條家本「廿」ニ作レドモ、國史大系本幷ニ『類聚三代格』ニヨリ「十」ニ改ム。

〔東大寺要録〕　巻第六　封戸水田章第八

類聚三代格云

大政官符

官家功徳分封租事

右被二右大臣宣一偁●。奉レ勅。件封租物自レ今以後。停二止進一レ官依レ例収納。

延暦十四年潤七月廿一日

○「偁」『類聚三代格』ニヨリ補フ。

是月

〔弘仁格抄〕　下　格巻第六

勅

延暦十四年閏七月十五日

八月大 盡
乙丑朔

■三日（丁卯）大堰に幸す。

〔日本紀略〕前篇十三

八月丁卯。幸二大堰一。

■五日（己巳）柏原野に遊猟したまふ。

〔類聚國史〕巻第三十二　帝王十二　天皇遊獵

八月己巳。遊二獵於柏原野一。

〔日本紀略〕前篇十三

己巳。遊二獵柏原野一。

■七日（辛未）陸奥鎮守將軍百濟王俊哲卒す。

〔日本紀略〕前篇十三

辛未。陸奥鎮守將軍百濟王俊哲卒。

○俊哲、陸奥國の夷俘を討治せし功により従六位上にして勳六等を授けられしこと寶龜六年十一月十五日（『續紀史料』十七－286）條、出羽國を鎭めし功により勳五等を授けられしこと同八年十二月十四日（『續紀史料』十七－483）條、同じく勳五等を授けられしこと同九年六月二十五日（『續紀史料』十八－43）條、従五位下を授けられしこと同十一年三月二十日（『續紀史料』十八－303）條、従五位上を授けられしこと同年四月二十六日（『續紀史料』十八－314）條、陸奥鎭守副將軍に任ぜられしこと同年六月八日（『續紀史料』十八－330）條、桃生・白河等の郡の神一十一社の神力により賊の圍を潰ることを得るを以て、幣社に預からしめんことを請ふこと同年十二月二十七日（『續紀史料』十八－398）條、征夷の勞を賞し正五位上勳四等を授けられしこと天應元年九月二十二日（『續紀史料』十八－601）條、陸奥鎭守將軍にして、事に坐し日向權介に左降せられしこと延暦六年閏五月五日（『續紀史料』二十－109）條、罪を免ぜられ入京すること同九年三月三日（『續紀史料』二十－418）條、蝦

夷を征つために坂上田村麻呂と東海道に遣はされ、軍士を簡閲し戒具を撿すること同十年正月十八日（『續紀史料』二十－566）條、下野守に任ぜられしこと同年同月二十二日（『續紀史料』二十－567）條、征夷副使に任ぜられしこと同年七月十三日（『續紀史料』二十－618）條、下野守にして、兼ねて陸奥鎮守將軍に任ぜられしこと（『續紀史料』二十－652）條參照。又、後に嵯峨太上天皇と從四位下勳三等俊哲の女從四位下貴命との間に生まれし、忠良親王が四品に叙されること『續日本後紀』承和元年二月乙未（十四日）條、陸奥鎮守將軍兼下野守俊哲の女散事從四位下百濟王貴命の卒傳記事『日本文徳天皇實錄』仁壽元年九月甲戌（五日）條に見ゆ。

【參考】

〔新撰姓氏錄〕　卷第二十四　右京諸蕃下　百濟

（八六五）百濟王。百濟國。義慈王之後也。

■

十日（甲戌）令條に依り、流罪者は時を待たず斷じ、死刑者は秋分を待ちて年終に斷奏せしむ。

〔類聚國史〕　卷第八十七　刑法一　斷例

桓武天皇延暦十四年八月甲戌。刑部省言。斷二決囚徒一。令有二正文一。順レ時肅殺。不レ合二虧違一。今撿二前例一。或過二秋分節一。延入二立春一。或輕罪之徒。禁經二歲月一。既乖二法式一。都無二准的一。伏請。依二令条一。流罪者不レ待レ時且斷。其死刑者。亦待二秋分一年終斷奏。許レ之。

〔類聚三代格〕　卷第二十　斷罪贖銅事

太政官符

應レ改下申二死罪一期限上事

右太政官去延暦十四年八月十四日下二刑部省一符偁。得二省解一偁。斷二決囚徒一。令有二正文一。順レ時肅殺不レ可二虧違一。今撿二承前行事一。或過二秋分節一延入二立春一。或輕罪之徒禁經二歲月一。是既乖二法式一。都無二准的一。望請。依二令條一。流罪者不レ待レ時以且悉斷申。其死罪者悉待二年終一斷申。其死罪者悉待二年終一斷申。謹請二處分一者。右大臣（藤繼縄）宣。奉レ勅。依レ請者。今被二右大臣（藤園人）宣一偁。奉レ勅。於レ行二大辟一秋冬無レ妨。而頃年有司必至二于年終一乃奏二刑書一。施行之後計二

令有正文

其行程。令下入二春月一以到中遠國上。宜二自今以後一。十月初断奏訖。但始レ自二十一月一日一至二于十二月十日一常行二祭事一。不レ得レ令下二京官一此限内決中戮刑上。

弘仁六年十一月廿日

〔政事要略〕巻第二十五　年中行事十月・巻八十一　糺彈雑事

弘刑格云。應レ改下申二死罪一期限上事

右太政官去延暦十四年八月十四日。下二刑部省一苻偁。得二省解一偁。断二決囚徒一。令有二正文一。順レ時肅殺不レ可二虧違一。今撿二承前行事一。或過二秋分節一延入二立春一。或輕罪之徒。禁經二歳月一。是既乖二法式一。都無二准的一。望請。依二令條一。流罪者不レ待レ時以且断申。其死罪者悉待二年終一断申。謹請二處分一者。右大臣宣（藤繩麻呂）。奉レ勅依レ請者。今被二右大臣宣一偁。奉レ勅於レ行二大辟一秋冬無レ妨。而頃年有司必至二于年終一乃奏二刑書一。施行之後計二其行程一。令下入二春月一以到中遠国上。宜二自今以後一。十月初断奏訖。但始レ自二十一月一日一至二于十二月十日一常行二祭事一。不レ得レ令下二京官一此限内決中戮刑上。

弘仁六年十一月廿日

弘刑格云。應レ改下申二死罪一期限上事

右太政官去延暦十四年八月十四日下二刑部省一苻偁。得二省解一偁。断二決囚徒一。令有二正文一。順レ時肅殺。不レ可二虧違一。今撿二承前行事一。或過二秋分節一延入二立春一。或輕罪之徒。禁經二歳月一。是既乖二法式一。都无二准的一。望請。依二令條一。流罪者不レ待レ時以且断申。其死罪者悉待二年終一断申。謹請二處分一者。右大臣宣（園人）。奉レ勅依レ請者。今被二右大臣宣一偁。奉レ勅於レ行二大辟一秋冬无レ妨。而頃年有司必至二于年終一乃奏二刑書一。施行之後。計二其行程一。令下入二春月一以到中遠国上。宜二自今以後一。十月初断奏訖。但始レ自二十一月一日一至二于十二月十日一。常行二祭事一。不レ得レ令下二京官一此限内決中戮刑上。

弘仁六年十一月廿日

延暦十四年八月十二日符

## 十二日（丁丑）國師を講師と曰ひ、國毎に一人を置く。

〔貞觀交替式〕

太政官符

應下簡二任諸國講讀師一及相替六年爲上限事。

右得二僧綱牒一�common。案二太政官去延暦十四年八月十二日符一�common。右大臣（繼縄）宣。奉レ勅。如聞。諸國々師任限二六年一。兼預二他事一煩以二解由一。自今以後。宜下改二國師一曰二講師一。毎レ國置中一人上。擧下才堪二講説一爲レ衆推讓者上。申レ官奏聞。然後聽レ補。一任之後。不レ得二輒替一。但讀師者。國分寺僧依レ次請レ之者。今撿二諸國講師一。或身期二老死一。或情無レ知レ足。則自倦二講席一。何堪二誨導一。遂使二汚レ法墮レ罪。背レ師弃レ資。加以當國司等。撿二掌伽藍一。諸寺綱維趁二走府廳一。此非二道俗異レ形。魚鳥殊レ性之意一。伏望。簡二大智一而任二講師一。擧二少識一而補二讀師一。限以二六年一爲二秩滿期一。其部内寺寄二附件師一。然則用レ人之策永存。媚レ俗之辱自息。謹請二處分一者。右大臣（神王）宣。奉レ勅。所下以撰二用講師一。特居中永任上者。本欲二人能弘レ道。教以利レ民也。而今名應二簡擢一。實乖二委寄一。雖二則昧進之可レ責。豈非二採擇之乖レ方。宜三准レ所レ請折中處分。其講師年限一依二來請一。但淺學之輩未レ練二戒律一。年少之人時聞二違犯一。宜下簡二年卅五以上。心行已定。始終不レ易者一補之。簡レ才用レ讓申レ官経レ奏訖。一同二前符一。若有下自事二衒賣一。妄求二俗擧一者上。永從二擯出一。以懲二後輩一。如僧綱受レ囑。亦揆レ情論レ之。其讀師者依レ舊用レ之。又部内諸寺者。講師國司相共撿挍。不レ得二獨恣一。

延暦廿四年十二月廿五日

【參考】

〔政事要略〕巻第二十五　年中行事十月

四日行部省進二年終断罪奏文一事

〔類聚三代格〕巻第三　諸國講讀師事

太政官符

應下定二試業之階一補中任諸國講讀師上事

講師五階　試業。複。維摩立義。夏講。供講。

讀師三階　試業。複。維摩立義。

右案下太政官去延暦廿四年十二月廿四日下二治部省一符上偁。僧綱牒偁。太政官延暦十四年八月十二日符偁。右大臣（藤繼縄）宣。奉レ勅改二國師一曰二講師一。每レ國置二一人一。擧下才堪二講説一爲レ衆推讓者上。申レ官奏聞然後聽レ補。但讀師者國分寺僧依レ次以請レ之者。伏望。簡二大智一而任二講師一。擧二小智一而補二讀師一。謹請二處分一者。右大臣（神主）宣。奉レ勅。講師依レ請。但淺學之輩未レ練二戒律一。年少之人時聞二違犯一。宜下簡二年卅五已上心行已定始終不レ易者一補上之。其讀師者依レ舊用レ之者。又案下太政官天長二年五月二日下二同省一符上偁。僧綱牒偁。撿二案内一。諸國講師夏中死去無レ人レ修レ法。撿二知庶事一隨処爲レ怠。伏請。擇二有能者一補二任讀師一者。右大臣（藤緒嗣）宣。奉レ勅。依レ請者。今被二右大臣（藤良房）宣一偁。補二講讀師一具存二前格一。而選擧之日未二必其人一。因去承和四年十一月廿六日。仰二僧綱一必令二盡署一。加以頃年之例別立二五階三階一令レ補二講讀師一。是協二格意一量レ才委任也。而今有司稱二格無二試業之階一。任レ意恣擧二少智之輩一。已乖二制旨一多涉二濫吹一。凡厥諸國置二講讀師一者。將レ令下邦家照二於戒珠之光一。天下護中於禪行之化上。若非レ智非レ行。如二此道一何。宜下自今以後緣二件業階一俾上申二補任一。

齋衡二年八月廿三日

〔政事要略〕巻第五十五　交替雜事

交替式云。太政官符　應下簡二任諸國講讀師一及相替六年爲上限事。

右得二僧綱牒一偁。案二太政官去延暦十四年八月十二日符一偁。右大臣（繼縄）宣。奉レ勅。如レ聞。諸國々師任限二六年一。兼預二他事一煩以二解由一。自今以後。宜下改二國師一曰二講師一。每レ國置中一人上。擧下才堪二講説一爲レ衆推讓者上。申レ官奏聞。然後聽レ補。一任之後。不レ得二輒替一。但讀師者。國分寺僧依レ次請レ之者。今撿二諸國講師一。或身期二老死一。或情無レ知レ足。則自倦二講席一。何堪二誨導一。遂使二汚レ法墮レ罪。背レ師弃レ資。加以當國司等撿二掌伽藍一。諸寺綱維趁二走府廳一。此非二道俗異レ形。魚鳥殊レ性之意一。伏望。簡二大智一而任二講師一。擧二小識一而補二讀師一。限以二六年一爲二秩滿期一。其部内寺寄二附件

師一。然則用レ人之策永存。媚レ俗之辱自息。謹請二處分一者。右大臣（神王）宣。奉レ勅。所下以撰二用講師一。特居中永任上者。本欲二人能弘レ道。敎以利レ民也。而今名應二簡擢一。實乖二委寄一。雖二則昧進之可一レ責。豈非二採擇之乖一レ方。宜三准レ所レ請折中處分。其講師年限一依二來請一。但淺學之輩未レ練二戒律一。年少之人時聞二違犯一。宜下簡二年卅五以上。心行已定。始終不レ易者一補上之。簡レ才用讓申レ官經レ奏等。一同二前符一。若有下自事二衒賣一。妄求中俗擧上者。永從二擯出一。以懲二後輩一。如僧綱受レ囑。亦撰レ情論レ之。其讀師者依レ舊用レ之。又部内諸寺者。講師國司相共撿挍。不レ得二獨恣一。

延暦廿四年十二月廿五日

【參考】

〔政事要略〕巻第五十五　交替雜事

私記云。延暦十四年八月十二日符偁。諸國々師任限六年。兼預二他事一煩以二解由一。自今以後。宜下改二國師一曰二講師一。每レ國置中一人上。擧下才堪二講説一。爲レ衆推讓者上。申レ官奏聞。然後聽レ補。一任之後。不レ得二輒替一者。案二此文一。日。國師時任限二六年一。而下文或身期二老死一。情無レ知レ足。何時期二老死一。未レ知レ所レ據如何。答。講師一任。期二老死一事不レ見。可レ求。問。兼預二他事一煩以二解由一。自今以後。宜下改二國師一曰中講師上。後不レ煩二解由一哉。答。依二此式文一不レ煩二解由一。依二此下条一更勘二解由一。一依二舊例一者。問。擧下才堪二講説一。爲レ衆推讓者上。雖レ堪二講説一。無二衆推讓一者不レ擧哉。又称レ衆者。道俗衆坎。答。雖レ有レ才無レ行。雖レ有レ行無レ才不レ擧。二色相待擧耳。又於レ任二僧綱一。待二道俗欽仰一。於二講師一者。但爲レ道被二推讓一耳。何者。下文云。若有下自事二限衒賣一。妄求中俗擧上者。永從二擯出一故。

## 十五日（己卯）近江國の相坂剗を廃す。

〔日本紀略〕前篇十三

己卯。廢二近江國相坂剗一。

十六日（庚辰）大原野に遊獵したまふ。

〔類聚國史〕　卷第三十二　帝王十二　天皇遊獵

庚辰。遊二獵於大原野一。

〔日本紀略〕　前篇十三

庚辰。遊二獵大原野一。

十八日（壬午）北野に幸す。

〔日本紀略〕　前篇十三

壬午。幸二北野一。

越中國高瀬神ほかを從五位上に敍す。

〔日本紀略〕　前篇十三

壬午。（中略）越中國高瀬神。雄神。二上神。叙二從五位上一。

十九日（癸未）朝堂院に幸し、匠作を觀たまふ。

〔日本紀略〕　前篇十三

癸未。幸二朝堂院一。觀二匠作一。

二十二日（丙戌）柏原野に遊獵したまふ。

〔類聚國史〕　卷第三十二　帝王十二　天皇遊獵

丙戌。遊二獵於柏原野一。

〔日本紀略〕前篇十三

丙戌。遊二獵柏原野一。

■二十八日（壬辰）日野に遊獵したまふ。

〔類聚國史〕卷第三十二　帝王十二　天皇遊獵

壬辰。遊二獵於日野一。

〔日本紀略〕前篇十三

壬辰。遊二獵日野一。

■二十九日（癸巳）曲宴ありて五位已上に綿を賜ふ。

〔類聚國史〕卷第三十二　帝王十二　天皇遊宴

八月癸巳。曲宴。賜二五位已上綿一有レ差。

■三十日（甲午）伊勢大神宮の装束物を奉らむがため、宮中及び左右京・畿内・近江・伊賀・伊勢等國に大赦す。

〔類聚國史〕卷第三　神祇三　伊勢太神

十四年八月甲午。大二祓宮中及左右京一。畿内。近江。伊賀。伊勢等國一。爲レ奉二伊勢太神宮装束物一也。

〔日本紀略〕前篇十三

甲午。大二祓宮中及左右京一。畿内。近江。伊賀。伊勢國一。爲レ奉二伊勢太神宮装束物一也。

巡察使を遣はすことを停む。

〔日本紀略〕前篇十三

停レ遣二巡察使一。

九月小 盡
乙未朔

四日（戊戌）東院に幸す。

〔日本紀略〕前篇十三

九月戊戌。幸二東院一。

十五日（己酉）詔して、梵釋寺を草創し、清行の禅師十人を置きて、近江國水田一百町・下總國食封五十戸・越前國五十戸を施し、以て修理・供養費に充てたまふ。

〔類聚國史〕巻第百八十　佛道七　諸寺・巻第百八十二　佛道九　寺田地

九月己酉。詔曰。眞教有レ屬。隆二其業一者人王。法相無邊。闡二其要一者佛子。朕位膺二四大一。情存二億兆一。導レ徳齊レ礼。雖レ遵二有國之規一。妙果勝因。思レ弘二無上之道一。是以披二山水名區一。草二創禪院一。盡二土木妙製一。莊二嚴伽藍一。名曰二梵釋寺一。仍置二清行禪師十人一。三綱在二其中一。施二近江國水田一百町。下總國食封五十戸。越前國五十戸一。以充二修理供養之費一。所レ冀還經二馳驟一。永流二正法一。時變二陵谷一。恒崇二仁祠一。以二茲良因一。普覃二一切一。上奉二七廟一。臨二寶界一而增レ尊。下覃二万邦一。登二壽域一而洽レ慶。皇基永固。卜二年無窮一。本枝克隆。中外載逸。綿該二幽顯一。傍及二懷生一。望二慈雲一而出二迷途一。仰二恵日一而趣二覺路一。

九月己酉。詔曰云々。是以山水名區草二創禪院一。土木妙製莊二飾伽藍一。名曰二梵釋寺一。置二清行禪師十人一。三綱在二其中一。施二近江國水田一百町。下總國食封五十戸。越前國五十戸一。以充二修理供養之費一。

〔日本紀略〕前篇十三

己酉。梵釋寺施二近江國水田百町一。

〔類聚三代格〕　卷十五　寺田事

勅。眞敎有レ属。隆二其業一者人王。法相無邊。闡二其要一者佛子。朕位膺二四大一。情存二億兆一。導レ徳齊レ禮。雖レ遵二有國之規一。妙果勝因思レ弘二無上之道一。是以披二山水之名区一。草二創禪地一。盡二土木之妙製一。庄二嚴伽藍一。名曰二梵釋寺一。仍置二清行禪師十人一。三綱者在二其中一。施二近江國水田一百町一。延暦十年所レ施也。充二下總國食封五十戸一。越前國五十戸一。並延暦七年所レ施也。以前充二修理供養之費一。所レ冀運經二馳驟一。永流（ソタヘ）二正法一。時變二陵谷一。恒崇二仁祠一。以二茲良因一。普爲二一切一。上奉二七廟一。臨二寶界一而増レ尊。下覃二万邦一。登二壽域一而洽レ慶。皇基永固卜レ年無レ窮。本枝克隆中外載逸。綿該二幽顯一。傍及二懷生一。望二慈雲一而出二迷途一。仰二慧日一而趣二覺路一。主者施行。

延暦十四年九月十五日

〔弘仁格抄〕　下　格卷第七

勅

延暦十四年九月十五日

## 十七日（辛亥）改めて地の便を量り、郷毎に正倉院を建つ。

〔類聚三代格〕　卷第十二　正倉官舍事

太政官符

應レ改二行建一正倉院一事

右被二右大臣（藤継縄）宣一偁。奉レ勅。去閏七月十五日毎レ郷更建二倉院一之状下二諸國一畢。追尋二此事一。頗乖二穩便一。今須下彼此相接比近之郷。於二其中央一同置中一院上。村邑遙阻絶隔之處。宜下量二地便一毎レ郷置上之。自餘之事一依二前符一。

延暦十四年九月十七日

〔政事要略〕　卷第五十四　交替雜事

又云。應レ改二行建一正倉院一事

閏七月十五日

右被二右大臣（藤繩）宣一偁。奉レ勅。去潤七月十五日。毎郷更建二倉院一之状。下二諸國一畢。追尋二此事一。頗乖二穩便一。今須下彼此相接比近之郷。於二其中央一同置中一院上。村邑遙阻絶隔之處。宜下量二地便一毎郷置上レ之。自餘之事。一依二前符一。

延暦十四年九月十七日

同　年　九月十七日

〔弘仁格抄〕下　格卷六

應レ改二行建一正倉院一事

■二十一日（乙卯）肥後國を大國と爲す。

〔日本紀略〕前篇十三

乙卯。以二肥後國一爲二大國一。

■二十二日（丙申）登勒野に遊獵したまふ。

〔類聚國史〕卷第三十二　帝王十二　天皇遊獵

九月丙辰。遊二獵於登勒野一。

〔日本紀略〕前篇十三

丙辰。遊二獵登勒野一。

■二十八日（壬戌）太白、晝に見はる。

〔日本紀略〕前篇十三

壬戌。太白晝見。

十月大 盡 甲子朔

一日（甲子）紫野に遊獵したまふ。

〔類聚國史〕 卷第三十二 帝王十二 天皇遊獵

冬十月甲子朔。遊二獵於紫野一。

〔日本紀略〕 前篇十三

十月甲子朔。遊二獵紫野一。

八日（辛未）三位已上の子孫及び四・五位の子、年廿一に滿たば蔭階に敍當す。

〔令集解〕 卷十七 選敍令 授位條

延暦十四年十月八日官符云。應下三位已上子孫及四位五位子年滿二廿一一者。叙中當蔭階上事。右得二式部省解一偁。按二選敍令一。凡授レ位者。皆限二年廿五以上一。唯以レ蔭出身者。限二年廿一以上一者。

〔弘仁格抄〕 上 格卷二

應下三位已上子孫及四位五位子年滿二廿一一者叙當中蔭階上事 延暦十四年十月八日

【參考】

〔令集解〕 卷第十七 選叙令 五位以上子條

（前略）延暦十九年四月十日官奏云。應レ蔭四位孫事。右謹案二令条一。三位以上蔭及レ孫。降二子一等一者。然四位蔭孫。一同二五位一。今四位者爵號既尊。封秩是厚。而及レ孫之蔭。尚未レ有レ殊。斟二酌其理一。實乖弘恕。伏請。降二子四等一。以

及二孫蔭一。庶使二冠蓋異レ等。尊卑別レ次。臣等商量。所レ定如レ件。謹録二事状一。伏聽二天裁一。謹以申聞申聞。謹奏。聞。

（後略）

十六日（己卯）交野に幸し、右大臣の別業を以て行宮と爲す。

〔日本紀略〕前篇十三

己卯。幸二交野一。以二右大臣藤原繼繩別業一。爲二行宮一。

二十二日（乙酉）車駕、宮に還りたまふ。

〔日本紀略〕前篇十三

乙酉。是日。車駕還レ宮。

二十八日（辛卯）栗栖野に遊獵し、近衛將監住吉綱主に從五位上を授けたまふ。

〔類聚國史〕巻第三十二　帝王十二　天皇遊獵

辛卯。遊二獵於栗栖野一。近衛將監從五位下住吉朝臣綱主授二從五位上一。

〔日本紀略〕前篇十三

辛卯。遊二獵栗栖野一。

三十日（癸巳）勅有りて板茂濱主・和氣廣世に帯釼せしめたまふ。

〔日本紀略〕前篇十三

癸巳。縫殿助板茂連濱主。式部少輔和氣朝臣廣世。有レ勅。特令下二兩人一帯釼上。

十一月大甲午朔盡

■三日（丙申）渤海國使ら六十八人、出羽國夷地志理波村に漂着し、劫略を被むる。勅して越後國に遷し、供給したまふ。

〔類聚國史〕　卷第百九十三　殊俗　渤海上

十四年十一月丙申。出羽國言。渤海國使呂定琳等六十八人。漂二着夷地志理波村一。因被二劫略一。人物散亡。勅。宜下遷二越後國一。依レ例供給上。

〔日本紀略〕　前篇十三

十一月丙申。出羽國言。渤海國使呂定琳等六十八人漂二著夷地一。勅。遷二越後國一。依レ例供給。

■十五日（戊申）勅して、放賤從良の藥師寺奴婢、朝臣・宿禰・臣・連等の姓を請ふを禁止し、部の字に作らしめたまふ。

〔小野宮年中行事裏書（寛平二年三月記）〕　第七丁表

桓武天皇延暦十四年十一月戊申。勅。藥師寺奴婢放賤從良之輩。請二朝臣宿祢臣連等姓一。宜三一切禁止並給二部字一。

○譯註日本史料本、「作部字」トスレドモ、今底本ノママ「給部字」トス。

■二十二日（乙卯）諸國の擧する七大寺稻、年毎の出擧の利極めて多きにより、寺家所在の見僧の支度年中雜用を取りて出擧の數を省かしむ。

〔類聚國史〕　卷第百八十二　佛道九　施入物

十一月乙卯。公卿奏。諸國擧七大寺稻。施入以來經レ代懸遠。毎レ年出擧其利極多。誠可下隨二代盛衰一。稍有中沿革上。而猶執二昔時之全數一。擧二今日之耗民一。國司由レ其有レ煩二於徵納一。百姓爲レ此無レ堪二於酬償一。喪レ業破レ家。寔繁有レ輩。夫

衆生一子。恩愛爲レ先。徵責如レ此。豈稱二父母一。伏望。取二寺家所在見僧支度年中雜用一。省二出擧之數一。息二百姓之愁一。待二其豊給一。更復二前例一。許レ之。

○諸國の擧せし七大寺稻のこと『弘仁式』『延喜式』主稅に見ゆ。

## 坊人を廢して兵士を以て邊戍に充つ。

〔類聚三代格〕　卷第十八　軍毅兵士鎭兵事

太政官謹奏

應下廢二防人一以二兵士一充中邊戍上事　傷遇反守邊也

右謹撿二案内一。太政官去延曆二年五月廿二日騰　勅符偁。緣二蝦夷騷動一。停レ相二替邊戍一。□人懷レ土。況久二羈旅一。宜下就二彼防一簡二願レ留徒一并括二舊防逃留一以配中常戍上。其所レ欠者差二當土兵士一補レ之者。今聞。防人相替一周爲レ期。久倦二戍場一。自廢二家業一。加以防人爲レ費觸レ事尤多。臣等望請。專廢二防人一。各差二當土兵士一。彼此量レ便配二其常戍一。唯壹伎對馬等二戍。隔レ海懸遠。有レ煩二往還一。一依二舊例一以爲二防人一。夫舊防人□□□□□□編附以點二兵士一。如不レ願レ留。及欲レ隨レ父者。差二押領使一依レ例進上。其防人之官同從二停廢一。臣等商量具件如レ前。伏聽二天裁一。謹以申聞。謹奏。

延曆十四年十一月廿二日

延曆二年五月廿二日騰
勅符
蝦夷騷動

〔弘仁格抄〕下　格卷第八

應下廢二防人一以二兵士一宛中邊戍上事

延曆十四年十一月廿二日

二十五日（戊午）大原野に遊獵したまふ。

〔類聚國史〕巻第三十二　帝王十二　天皇遊獵

十一月戊午。遊二獵大原野一。

〔日本紀略〕前篇十三

戊午。遊二獵大原野一。

十二月大　盡
甲子朔

■一日（甲子）京中を巡幸す。

〔類聚國史〕巻第三十二　帝王十二　天皇巡幸

十二月甲子。巡二幸京中一。

〔日本紀略〕前篇十三

十二月甲子朔。巡二幸京中一。

■四日（丁卯）多治比大刀自に度七人を賜ふ。

〔類聚國史〕巻第百八十七　佛道十四　度者

十二月丁卯。賜二従四位下多治比眞人大刀自度七人一。

○邑刀自（大刀自）无位から従五位上を授けられしこと延暦八年正月二十七日（『續紀史料』二十－291）條、従四位下を授けられしこと同十年十二月十七日（『續紀史料』二十－676）條、長岡京地五町を賜はること『日本後紀』延暦十六年三月丁酉（十一日）條に見ゆ。

■十三日（丙子）參議已上に白玉帶を著することを聽す。

〔日本紀略〕前篇十三

丙子。聽二參議已上著一白玉帶一。

【參考】

〔延喜式〕巻第四十一　彈正臺

凡白玉腰帶。聽二三位以上及四位參議著用一。玳瑁。馬腦。斑犀。象牙。沙魚皮。紫檀五位已上通用。

十五日（戊寅）武藏國足立郡大領武藏弟總を國造と爲す。

〔類聚國史〕　卷第十九　神祇十九　國造

十二月戊寅。武藏國足立郡大領外從五位下武藏宿祢弟總爲二國造一。

○弟總、貢獻により外從五位下を授けられしこと延暦七年六月二十五日（『續紀史料』二十－212）條に見ゆ。

十八日（辛巳）京中を巡幸す。

〔類聚國史〕　卷第三十二　帝王十二　天皇巡幸

辛巳。巡二幸京中一。

〔日本紀略〕　前篇十三

辛巳。巡二幸京中一。

十九日（壬午）流人を免じて京に入らしむ。

〔日本紀略〕　前篇十三

壬午。免二流人一。令レ入レ京。

二十日（癸未）佐渡權守吉備泉を備中國に移す。

〔日本紀略〕　前篇十三

癸未。佐渡權守吉備朝臣泉移二備中國一。

○泉、同寮と協はずして頻に告訴され伊豫國守を解かれしこと延暦三年三月二十五日（『續紀史料』十九－225）條、佐渡權守に左降されしこと同年四年十月二日（『續紀史料』十九－442）條に見ゆ。又、卒傳記事（『續紀史料』十九－225）參照。

■二十二日（乙酉）淡路國に配せし不破内親王を和泉國に移す。

〔日本紀略〕前篇十三

乙酉。配二淡路國一不破内親王移二和泉國一。

○不破内親王、氷上川繼の謀反に坐して淡路國に移配されしこと延暦元年閏正月十四日（『續紀史料』十九－7）條に見ゆ。

■二十六日（己丑）軍を逃れたる諸國の軍士、特に死罪を宥して陸奥國に配し永く柵戸と爲す。

〔日本紀略〕前篇十三

己丑。逃レ軍諸國軍士三百卌人。特宥二死罪一。配二陸奥國一。永爲二柵戸一。

【參考】

〔唐律疏議〕巻第二十八　捕亡律　從軍征討亡

諸征名已定。及從軍征討而亡者。一日徒一年。一日加二一等一。十五日絞。臨二對寇賊一而亡者斬。主司故縱。與同罪。謂下主司知レ情。下條準レ此。

疏議曰。征名已定。謂二衞士及募人。征名已定訖一。及從軍征討而亡者。一日徒一年。一日加二一等一。八日流三千里。十五日絞。若臨二對寇賊一。謂二壁壘相對。矢石將交一而亡者斬。亦據二應レ戰之人一。主司故縱。與同罪。謂下主司知レ情。容二其亡避一。各與二亡者一罪上同。亡者合レ斬。主司合レ絞。註云二下條準レ此。謂下下條向レ防。及在レ防未レ滿而亡者。主司故縱亦各同罪上。其臨二對寇賊一而有レ亡者。但亡卽坐。不レ計二日數及行遠近一。其有二從軍征討而亡一。未レ滿二十五日一軍還者。未レ還以前。依二征亡之法一。征還之後。從二軍還亡罪一而斷。將二未還之日一。併二滿軍還之日一累科。

軍還而先歸者。各減二五等一。其逃亡者。同二在家逃亡法一。

疏議曰。軍雖二凱還一。須レ依二部伍一。若不レ隨二團隊一而輒先歸者。各減二軍亡罪五等一。其逃亡者。同二在家逃亡法一。謂下一日笞四十。十日加二一等一。罪止中流二千里上。若軍還先歸。一日徒一年上減二五等一。合二杖六十一。罪止二徒一年半一。日若少。從二先歸日一科。日若多。從二有軍名亡法一。

與同罪

是歳

雑載

〔公卿補任〕

延暦十四年乙亥

右大臣　正二位　藤繼繩　中衛大將。皇太子傅。

中納言　正三位　紀古佐美　正月丁巳兼式部卿。

従三位　神王五十九　彈正尹。

壹志濃王六十三　治部卿。越前守。

參議　正四位下　石川眞守　大宰大貳。正月兼下總守。

大中臣諸魚　伯。近衛大將。二月十九日兼左大辨。

従四位上　藤雄友　大藏卿。左衛門督。

従四位下　同内麿　三月兼陰陽頭。刑部卿如元。

同眞友　中務大輔。右京大夫。二月兼下總守（大輔大夫如元）。

同乙叡　左京大夫。二月庚午兼侍従山城守。同月丁巳兼主馬首（大夫守如元）。

非參議　従三位　大伴乙麿　月日叙。

従三位古慈斐男。

〔七大寺年表〕

延暦十四年乙亥。

同帝。

僧正善珠。　少僧都行賀。興福寺別當。

等定。　律師善上。

永忠。　善操。

善謝。　施曉。

東大寺別當堪久君。治四年。後任二律師一云云。但補任不レ見。良惠弟子。

諸國始各置二講師一人一。天平寶字六年有二此記一。可レ正レ之。

弘法大師。於二東大寺一受二具足戒一。年二十二一。名空海。師主勤操和尚云々。

〔一代要記〕

十四年乙亥、梵釋寺置二十禪師一、參議以上白玉帶、四月九日、弘法出家、年二十二於二東大寺一受二具足戒一、弘法大師年二十出家二十二而受戒云々

○この年、空海が東大寺戒壇院にて具足戒を受けしことは、『金剛寺文書』僧空海牒案（大日本古文書家わけ第七）にも「今契二延暦十四年四月九日一。於二東大寺戒壇院一。受二具足戒一。」と見ゆれど、異説多くして定めがたし。

〔岩金山太神宮寺儀軌〕

延暦十四年乙亥六月十五日。會依二テ　桓武天皇御勅一ニ一。傳教大師御取祭（シュサイナリ）也。仍テ宣二（センケイシ）詣　宣旨ヲ一以二テ淺井郡一ヲ定下ムル勤二ムル頭人等一ヲ在所ト上事云々。

〔子島山觀覺寺緣起〕

始レ自二天平寶字四年歳次庚子一至二于延暦十四年歳次乙亥一。合三十六ヶ年。如卽以二件寺一付二屬第七入室弟子延鎭修行

大法師一。而後以二●考月恐同延暦十四年歳次乙亥六月二十八日一遷化也。

〔清水寺縁起〕

延暦十四年乙亥六月廿八日。内供奉報恩入滅。是清水寺草創延鎮内供之師也。僧綱補任抄出上。記。

〔清水寺縁起〕

延暦十四年六月廿八日報恩大師入滅。抽二延鎮一被レ附二屬子嶋寺一。仍延鎮往二還清水草庵一住二持之一。

〔清水寺縁起〕

本願檀那大納言田邑麿事

（中略）

延暦十四年征夷将軍。正四位下。近衛中将。越後守。同年二月兼木工頭。同廿年十一月叙二従三位一。（後略）

〔清水寺縁起〕

一　延鎮云。本願田村麿傳記事

（中略）

一　寶龜十一年任二左近衛將監一。延暦十四年補二征夷大將軍一。任二正四位下中將等一。

（中略）

桓武天皇御宇。延暦十四年の春。東海より蝦夷發逆のよし。頻に其きこえあり。依レ之征伐のために。以二田村麿一爲二征夷將軍一さし下さる。天下の重事これにすきす。大樹延鎮の室に向て。今度東夷爲二誅戮一　勅を蒙。進發せしむへきものなり。朝家安泰のため。又愚夫息災の爲。懇禱慇懃に筋力を可レ被レ勵のよし被レ命。發願の旨おほくて立歸給ふ。

田村麿傳

延暦十四年補征夷大將軍

〔卷尾山縁起證文等之事〕

次弘法大師者。讃岐國多度郡屏風浦人也。（中略）時延暦十二年。癸酉生年二十歳。（中略）同十四年生年二十二。（中略）又桓武天皇御宇。延暦年中建二満願寺一。

〔日本霊異記〕下巻　縁第三十八

景戒得傳燈位

然延暦十四年乙亥冬十二月卅日、景戒得二傳燈位一也。